

<b>精神保健福祉援助演習A</b>			単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
			1単位	SR(演習)	2年以上
科目コード	CW3157	担当教員	阿部 正孝 / 志村 祐子 / 大和田 誠子 / 八巻 幹夫 / 山本 操里 / 狩野 俊介 / 小野 芳秀 ほか		

### 注意事項

この科目は平成24年度以降入学者のみが受講できる科目です。

### ■科目の内容

関連科目との関連性をふまえ、精神保健福祉援助の基礎的知識と技術の習得を図ることを目的とします。

精神保健福祉援助に係る知識と技術について、事例を通して実践的に習得します。また、事例を通して地域福祉の基盤整備と開発についても学んでください。精神保健福祉援助の知識と技術を実践的に習得し、かつ概念化できるようになることを目指します。

### ■到達目標

- 1) 自分の特性を把握できる。
- 2) 支援者としての自分への気づきを得ることができる。
- 3) 関わりの基本的姿勢が説明できる。
- 4) 面接における基本的な原則を意識しながら、面接を進めることができる。
- 5) 伝達技術における様々な方法について理解して説明できる。
- 6) 情報の収集におけるアセスメントができる。
- 7) ジェノグラム、エコマップが書ける。
- 8) 客観的な記録を書ける。
- 9) グループ学習の中から、グループダイナミクスを理解し、活用できる。
- 10) 地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握方法を説明できる。
- 11) 地域アセスメントから、地域福祉計画をたてられる。
- 12) ネットワーキングの方法や必要性について理解できる。
- 13) 必要な社会資源の活用・調整・開発について理解できる。
- 14) サービスの評価が理解できる。

### ■教科書

- 1) 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版 精神保健福祉士養成セミナー7 精神保健福祉援助演習 [基礎][専門]』へるす出版、2014年
- 2) 「IV資料集：ソーシャルワーカーの倫理綱領/社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領/精神科ソーシャルワーカー業務指針」(コピーで配付)

(最近の教科書変更時期) 2014年4月

## ■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	精神保健福祉士についての理解 (基礎編 序章Ⅰ)	ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の意義について理解する。  キーワード：社会的入院、生活支援の視点、倫理綱領	「Y問題」とはどのような事件だったのか、他の文献等から調べ、そのことの反省から精神保健福祉士のあり方としてどのようなことが提起されたのか調べる。
2	自己覚知について (基礎編 第1章Ⅱ)	ソーシャルワークにおける自己覚知の意味について理解する。  キーワード：自己覚知、スーパービジョン、ジェノグラム、エコマップ	ソーシャルワークにおける自己覚知の定義と必要性について調べる。
3	専門職としての価値と倫理 (基礎編 第2章Ⅰ)	個人の価値観と専門職である精神保健福祉士としての価値観の違いについて理解する。  キーワード：クライアントの自己決定、権利擁護	「なぜ精神保健福祉士になりたいのか」、自身がどのような価値観や人生観を持っているのか再確認しながら整理する。
4	支援（相談援助）の対象について (基礎編 第2章Ⅱ)	精神保健福祉領域における相談援助の対象、精神保健福祉士としての相談援助の範囲について理解する。  キーワード：マイクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	精神保健福祉士は誰を援助の対象とするのか、相談援助の範囲にはどのようなレベルがあるのか整理する。
5	精神障害者の理解 (基礎編 第2章Ⅲ)	精神障害者を疾病と障害を併せ持つ生活者として捉える視点について理解する。  キーワード：ホスピタリズム、ストレングス、精神保健福祉法	精神保健福祉士は支援の対象となる精神障害者をどのような「存在」として理解すれば良いのか、4つの視点について整理する。
6	援助関係のあり方 (基礎編 第2章Ⅳ)	専門的な援助関係、援助関係の結び方等、援助関係の原則について理解する。  キーワード：パイステックの7原則	ケースワーク（直接援助技術）における専門的な援助関係の行動原理について示した、パイステックの7原則について整理する。
7	コミュニケーションの基本 (基礎編 第3章Ⅰ)	言語・非言語コミュニケーションについて理解する。  キーワード：言語・非言語コミュニケーション・想像する力	言語・非言語的コミュニケーションとは具体的にどのようなものか理解したうえで、家族や友人から「ある日の出来事」について話してもらい、その時の話し手の感情や状況を自分なりにイメージしてみる。
8	基本的面接技術 (基礎編 第3章Ⅱ)	対人援助における共感・感情移入について理解する。  キーワード：共感、感情移入、『自覚しない逆転移』	教科書 p.34「共感の2つの側面」、『自覚しない逆転移』とはどのようなことか整理する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	グループワークの基本 (基礎編 第3章III)	グループ援助の可能性と留意点について理解する。  キーワード：ヤーロム、ディーガン	集団精神療法の領域においてヤーロムがあげたグループのもつ有効性の11の因子、ディーガンのあげたリカバリー要因としての「2、3歩先を行く当事者」の存在の有効性についてそれぞれまとめる。
10	情報の収集・整理・伝達 (基礎編 第3章IV)	情報収集の目的と原則および方法について理解する。  キーワード：アセスメント、ジェノグラム、エコマップ	教科書 p.38の「1 情報収集の目的」を理解した上で、p.40～43の「4 情報収集の原則と方法」について整理する。
11	課題の発見と分析 (支援の見立て)について (基礎編 第3章V)	課題の発見に必要なプランの作成能力・洞察力・的確な情報提供力ならびに情報収集・整理能力について理解する。  キーワード：協働、態度形成	教科書 p.44の尾崎新の援助において理解しなければならない5領域について具体的にイメージしながら、精神保健福祉士の誠実な態度と傾聴の姿勢、理解者でありたいと願い続ける謙虚な態度形成とは何か整理してみる。
12	記録について (基礎編 第3章VI)	記録の意義と具体的方法について理解する。  キーワード：ケース記録、アセスメントシート	どのような記録がどのような目的で必要なのか、記録の種類と使用目的、記録事項、記述方法について教科書 p.48～50をよく読み整理する。
13	基本的援助方法の理解 (基礎編 第4章 I・II・III)	個別援助技術(ケースワーク)・集団援助技術(グループワーク)・地域援助技術(コミュニティワーク)について理解する。  キーワード：4つのPと2つのP、個別化、ホリス、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク	パールマンの4および2つのP、直接的援助におけるホリスの6つの手法、個別援助技術(ケースワーク)、集団援助技術(グループワーク)、地域援助技術(コミュニティワーク)の過程と原則について整理する。
14	チームアプローチとケアマネジメント (基礎編 第4章 IV・V・VI)	チームアプローチの意義と効果、ケアマネジメントの原則について理解する。  キーワード：情報の共有化、ニーズ本位、チームアプローチソーシャルワークの共通基盤	チームアプローチとはどのようなものか整理する。クライアントの複合的なニーズに沿って社会資源を適切にアレンジしてパッケージにして提供し、地域で支えるケアマネジメントについて過程と原則、共通する①～⑤の基盤(教科書 p.69)について整理する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	自己理解を深める (基礎編 付章Ⅰ・Ⅱ)	1～14の学びを通して得られた知見と要点を整理し、再び自身の価値観を見つめ直し、精神保健福祉士の意義と専門性について理解する。  キーワード：「かかわり」「寄り添う」「協働の関係」「権威性」「自己覚知」「人と状況の全体性」	各キーワードの意味について、教科書の内容を吟味し理解を深める。演習スクーリング受講後は、グループワーク等の演習内容を振り返りながら、援助者としての自己の適性や精神保健福祉士の価値について理解を深化させる。

## ■レポート課題

1 単位め	※スクーリング事前レポート（所定の期日までに提出） 利用者とのコミュニケーションにおいて大切と考えられることをまとめてください。
2 単位め	※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後の所定の期日までに提出） 精神保健福祉士の価値と倫理についてまとめてください。

## ■アドバイス

レポート作成にあたっては、ご自身の経験だけでなく、教科書をよく読んだうえで取り組んでください。ただし、教科書や参考図書の丸写しは認められません。

テキストの2章・3章・4章をよく読んでまとめてください。

1 単位め  
アドバイス

テキストの序章・2章および本課題と一緒に送付しているIV資料集の「1 ソーシャルワーカーの倫理綱領」「2 社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領」「3 精神科ソーシャルワーカー業務指針」(コピーで配付)をよく読んでまとめてください。

2 単位め  
アドバイス

## ■参考図書

- 1) 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 第8巻 精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』中央法規出版、2012年
- 2) 福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ10 精神保健福祉援助演習（基礎）』弘文堂、2012年

## ■レポートの提出方法

- 1) 1単位につき、1冊のレポート用紙を使用してください。
- 2) 1単位のレポート文字数は、2,000字程度ですが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です。
  - ・手書き用レポート用紙→p.16まで使用可。
  - ・パソコン印字用レポート用紙→左右40字×30行×2～4枚まで可。

3) 教員名は記入しないでください。

4) 各レポートは所定の提出締切日までに提出してください(『試験・スクーリング情報ブック』p.45~48または『With』参照)。

### ■スクーリング受講申込上の注意

- ・この科目はスクーリングの受講が必ず必要になります(仙台でのみ開講)。
- ・1クラス20人以内の少人数で開講します。
- ・受講料は10,000円となります。
- ・受講許可証・納入依頼書は、各判定日以降に発送いたします。
- ・スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』p.45~48または『With』を参照ください。
- ・申込は、『With』巻末の申込ハガキまたは用紙を郵送してください。希望受講日は必ず第二希望まで○を付けてください(第一希望と同一は不可)。
- ・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・申込締切後の、受講日程の変更は受け付けいたしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- ・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。
- ・「精保演習 A」または「精保実習 A 選考試験(面接)」が不合格となった場合、当該年度の「精神保健福祉援助実習 A」の申込みは無効となります。

### ■「精保演習 A」スクーリング受講条件

p.172【条件1】参照。

### ■「精保演習 A」スクーリング受講・単位認定について

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイング等の実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

また、「精保演習 A」の受講内容・成績および同日程中に実施される「精神保健福祉援助実習 A(福祉施設実習<sup>※</sup>) 選考試験」によって次年度実習受講の可否が判定されます。

※福祉施設実習：障害福祉サービス事業を行う施設等における実習

### ●単位認定

1 単位めレポート+「精保演習 A」スクーリング(スクーリング試験は実施しません)+2 単位めレポート等で総合的に単位認定いたします(「**■**科目の評価基準」参照)。

2 単位めレポートを所定の期日までに提出しない場合は、スクーリングの受講は無効となります。

また、2 単位めレポートが再提出の場合は、再提出となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、2 単位めレポート提出締切後に郵送にて行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、1単位め合格済みレポートについても無効となります。次回以降の「精保演習 A」を申込み際、所定の期日までに再度「精保演習 A」の1単位めレポート提出および申込みを行ってください。

### ■精神保健福祉援助実習 A 選考試験・補講演習について

---

■「精神保健福祉援助実習 A 選考試験」→ p.173参照

■補講演習→ p.173参照

「精保演習 A」受講申込者で実習免除者以外は、「精神保健福祉援助実習 A」を申込みことが前提となります。「精保演習 A」または「精神保健福祉援助実習 A 選考試験」が不合格となった場合、当年度の「精神保健福祉援助実習 A」の申込は無効となります。

### ■科目の評価基準

---

小テスト（20%）+選考試験（面接）（20%）+演習内容（40%）+素行評価※（10%）+演習レポート（10%）により総合的に評価する。グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。

※素行とは、普段からの各種申込・提出期日の遵守状況や言葉づかい・態度を指す。